

# 自治体 あいちの仲間

発行所 自治労連愛知県本部 名古屋市北区柳原三丁目7番8号  
U R L http://www.jaichi.jp TEL 052 916-2251  
Eメール info@jaichi.jp FAX 052 916-2308

## 2012.6.10 No.1050

発行責任者 柳 進 定価 10円  
組合員の購読料は組合費のなかに含まれています

### 自治労連 第3回「対話と提言」全国集会

と き：6月30日(土)13:00  
～ 7月1日(日)12:00  
ところ：名古屋市「名古屋クラウンホテル」

# 職員の健康なくして 市民サービスの向上はありえない

豊川市職労

豊川市で押しすすめられている、豊川市定員適正化計画と称した職員削減。一方で、県からの事務移譲やイベントの増加など、仕事量は日々増加しています。組合員の声から職場の現状を聞きとり、組合としてどう改善をめざすのか、どう行動していくのか、豊川市職労取材しました。

## 職員を25%削減 「適正化」計画

豊川市では市定員適正化計画として、平成17年度から22年度までで240人の職員数を減員してきました。また23年度から27年度までの5年間で、「豊川市少数精鋭計画」と称して119人の減員を行うとし

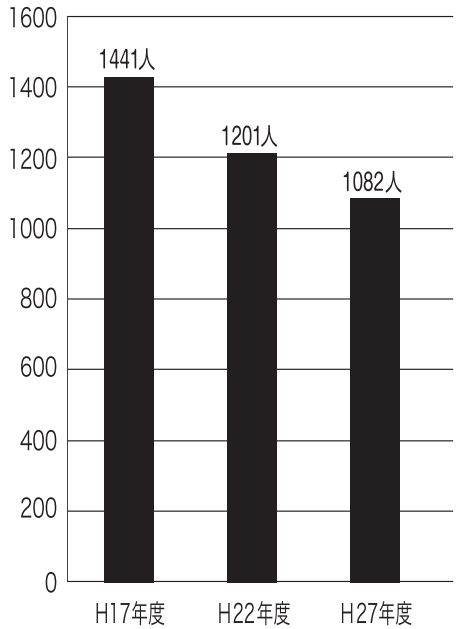
て、10年間で合計359人を減員するとしています。平成17年度の職員数は1441人(市民病院職員を除く)であり、実に約4分の1の職員数が減員されることとなります。人が減らされ仕事は増える、これでは職員に大きな負担がかかることは明らかです。

また組合員のBさんは、

## 残業は当たり前 職員の負担は増加

「窓口業務がある職場では、事務仕事も窓口業務が終わるまでですまない。残業が当たり前になっていって」と語る組合員のAさん。もともと職員の数が少ない職場では、受け持つ仕事量が増えていると減員の影響の大きさを語ります。豊川市の22年度のデータでは、一人あたりの年間時間外勤務が630時間を超える職場も確認されています。

## 仕事は増える一方なのに 25%も人員が減らされる!?



10年間で  
359人ものが  
削減!?  
その一方で仕事量は  
年々増加



データは：豊川市定員適正化計画(3次/平成17年～22年、4次/平成23～27年)から



夏季闘争に向け団結カンパロー!

5月26日、夏季闘争方針などを決める第3回中央委員会を県本部で開催しました。伊藤委員長は、「県内で

## 夏季要求実現に向けたとりくみの強化を 第3回県本部中央委員会

### 第3回県本部中央委員会

の自治体公務員関係労働者の多数派をめぐるといふ方針をかがけていきたい。あらためて組織拡大に向け、非正規を含めた未加入者への組合加入のとりくみに奮闘しよう」と開会あいさつ。

中央委員からは、「各単組の組織強化のため、県本部には役員に対して適切な指導・協力・支援をお願いしたい(西尾市職)」「5年間の努力の結果、嘱託職員連絡会を結成し、切実な思

いを要求書にまとめ提出した(豊橋市職)」「消費税増税と保育新システムに反対していくために、署名運動をしている。自治体との懇談を通じ、愛知から反対の声をあげるために力を貸して欲しい(名古屋市職)」「ヘルパーの生活援助時間が削減された。もともと戻すために自治労連と社保協と一緒に頑張りたい(なごや介護労組)など春の組織拡大や夏季闘争に向けて積極的な発言が行われました。



取材日は20時になっても庁舎のほとんどの窓に明かりが

「減員される一方で、住民サービスの質を向上しろと言われるのにギャップを感じる」といいます。「体調不良やメンタルで休む人が増えている。残業を減らし人員を増やして欲しい」と訴える。また少数精鋭計画について、かたくなに職員削減に



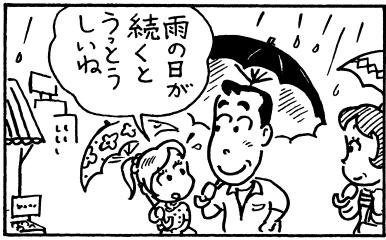
組合の取りくみを語る山口書記長

しかし、ライトダウン後にふたたび電気を付けて残業する実態が組合員からの声で明らかになり、「残業パトロールを当局に行うように何度も要請したが、動く姿勢が見られなかった。それならば組合がやるしかない」と組合として残業パトロールにとり組むことを決めたといいます。また少数精鋭計画について、かたくなに職員削減に

こだわる当局との交渉の中で、「削減数119は絶対の数字ではない」と言明させたと言います。「B1グランプリをはじめとするイベントの増加、旅券業務など県からの事務移譲が行われる中、職員を削減して本当にやっていたいのかと訴えている」と語る山口書記長。「人が減り仕事が増えれば、職員に大きな負担がかかり市民サービスの低下につながる。職員の健康なくして、市民サービスの向上はありえない」と増員要求も強めたい」と訴えます。組合員の声をくみ取ることで職場環境を改善し、市民サービスの向上につなげたいと、これからの組合活動について語ってくれました。

# 「言いたい劇場」

小菅りや子



**セット共済** 安く安心

自治労連 掛金 1790円/月

病氣入院 5000円/1日

下請いじめ反対、下請二法遵守  
愛知県労働組合総連合・トヨタ総行動実行委員会



中小企業の実態を紹介する林会長

5月27日、愛労連とトヨタ総行動実行委員会は、中小企業アンケートの結果を地域に返す、ピラ配布行動を行いました。「アンケート」は豊田・刈谷・安城市内の中小企業にトヨタ総行動で配布された54通が回収されています。配布されたピラは、仕事量の減少や大

企業が押しつける単価切り下げの実態など、アンケート結果の特徴がまとめられたものです。配布行動前に行われた学習会では、林浅吉・岡崎民主商工会会長が「中小企業経営と消費税増税を中心」と題してミニ講演。単価切り下げと事業所得に係る関係なく払われる消費税に苦しむ中小企業の実態が紹介されました。また、大企業が生産拠点を海外に移すなど利益のみを追求する姿

1049号で紹介した囲碁将棋大会の記事の中で、「鳥井信一さん」と表記していましたが、正しくは鳥居信一さんでした。お詫びし、訂正いたします。

## お詫びと訂正



水鉄砲でペットボトルを狙い撃ち



子どもカーを運転してゴミ収集

今年で6回目を迎えました。会場となった「こども未来館」には、こども連れの家族を中心に3000人を超える来場者で埋めつくされ、笑顔とはしゃぎ声で満ちあふれました。豊橋市職労からは環境支部や水道支部をはじめとする組合員が参加し、自分たちの仕事を活かした各コーナーで市民とふれあいました。環境支部が自前でシニアカーを改造した子ども電動収集車でのゴミ収集体験や、給水車の水を汲んで行う水鉄砲遊びコーナーは、やってきたこどもを夢中にさせました。その他にも、学校給食調理員による試食コーナーや、女性部による東日本震災の被災地へ激励のメッセージとイラストを届けるお絵かきコーナーなどを通じて、訪れた市民と交流を深めながら公務の仕事のアピールしました。フェスタでは、「ごうした遊んで学べる体験コーナー」とともに、和太鼓の演奏や大道芸人のパフォーマンスのステージ企画を通じて親子で楽しく盛り上がりました。



桜丘高校で引き継ぎ集会

平和行進は、静岡県湖西市の湖西西部公民館前広場で静岡県から愛知県へと引き継がれました。その後、行進はJR二川駅を経て豊橋市の桜丘高校に到着、歓迎集会が行われました。桜丘高校は、広島に投下された原爆の残り火を、平和のシンボル「原爆の火」として

5月25日、住民が主人公の地方自治をすすめる交流集会実行委員会は労働会館で、「どうなる大阪・橋下「改革」?」関西から進む究極の自治体構造「改革」を斬る」と題して学習会を開催しました。講演に立ったのは、二宮厚美・神戸大学名誉教授です。「橋下主義は常に何かを攻撃することで世間の関

心を引き、マスコミ報道を通して国民はそれが正しいと感じてしまふ」と語る二宮教授。橋下が支持される背景について、「大阪で貧困化がすすんでいることが原因。攻撃され権利を違法に侵害される他人の不幸を、喜んでしまふ風潮が蔓延してしまっている」と指摘します。また地方自治の視点から重視すべきこととして、「公務員労働組合抜きには首長が行う独裁をコントロールできない」と公務員労働組合の重要性を訴えました。

橋下に対抗するために、職場の多数派をめぐし、公務員の労働基本権をまもる公務員労働組合の役割が求められています。

核兵器のない世界の実現をめざそうと、広島を目的地に東京・夢の島を出発した2012年原水爆禁止国民平和行進が、5月31日、愛知県内に入りしました。

引き継がれる平和の心  
2012年原水爆禁止国民平和行進

長い行進で疲れた参加者の体をいやす、力強い太鼓部と吹奏楽部の歓迎演奏。参加者からは、「想いをとなぐこのとりくみはとても尊いと感じた」など行進に対する感想が寄せられました。また行進と同時に核兵器の廃絶署名と募金活動も行われました。

愛知県内の平和行進は6月11日まで行われ、その後岐阜へと引き継がれます。

橋下主義を批判する二宮教授

橋下に対抗するために、職場の多数派をめぐし、公務員の労働基本権をまもる公務員労働組合の役割が求められています。

# 笑顔いっぱい 地域を元気に!

## まちなかいきいきフェスタ2012 豊橋

5月27日、豊橋市職労を中心に市民団体でつくる実行委員会は、まちなかいきいきフェスタ2012(旧「春フェスタ」)を開催。地産地消を広め、まちなかに賑わいをつくりだそうと行われたこのフェスタは、

倉立夫さんは、「こどものうちからゴミ分別の意識を持って欲しい」と語ります。「ごうした活動を通して、地域住民の方とふれあうことが大事。自分たちの仕事についてより理解してもらいたい」とフェスタに取り組み思い、地域に根ざした公務労働者の役割を訴えました。

# 独裁を止めるのは公務員労働組合だ

~二宮教授が橋下主義を斬る~

5月25日、住民が主人公の地方自治をすすめる交流集会実行委員会は労働会館で、「どうなる大阪・橋下「改革」?」関西から進む究極の自治体構造「改革」を斬る」と題して学習会を開催しました。講演に立ったのは、二宮厚美・神戸大学名誉教授です。「橋下主義は常に何かを攻撃することで世間の関

心を引き、マスコミ報道を通して国民はそれが正しいと感じてしまふ」と語る二宮教授。橋下が支持される背景について、「大阪で貧困化がすすんでいることが原因。攻撃され権利を違法に侵害される他人の不幸を、喜んでしまふ風潮が蔓延してしまっている」と指摘します。また地方自治の視点から重視すべきこととして、「公務員労働組合抜きには首長が行う独裁をコントロールできない」と公務員労働組合の重要性を訴えました。

橋下に対抗するために、職場の多数派をめぐし、公務員の労働基本権をまもる公務員労働組合の役割が求められています。

### 学習会「次代を担う労働安全衛生」

場所：労働会館本館会議室

日時	6月16日(土) 午後1時30分~午後4時30分
第1講座 講師	労働安全衛生法ができた背景 佐々木昭三(愛知センター副理事長)
第2講座 講師	若ものメンタルヘルス(パワハラ・セクハラ) 浅尾拓朗医師(北メンタルクリニック)

日時	6月30日(土) 午後1時30分~午後4時30分
第1講座 講師	人間らしい労働(ディセントワーク) 樽井直樹弁護士(東海労働弁護士)
第2講座 講師	職場の労働安全衛生法 吉川正春(愛知センター事務局)

参加費 1日500円、学生・無職は無料  
参加申し込みは県本部までお願いします。